

平成29年度第1回前橋市公立大学法人評価委員会に係る意見提出様式

1 平成28年度業務実績に関する報告について

■全般的事項に関して

(篠塚委員長)

⑩全体的な実施状況は概ね計画どおりに進んでいると言えますが、博士前期課程における履修モデルの作成とその学生への提示、学部から大学院への一環した教育システム構築におけるアンケート調査の実施の2点が遅れており、これらの早急な実施を望みます。

(富山委員)

①「業務の実績」に記載している内容が「年度計画」に記載してある内容に合っていない／対応していないという箇所が散見されます。いくつかは個別意見として具体的に記載しましたが、全体を対象としてこの視点から再度のチェックをした方がいいように思います。

(鯨澤委員)

中期目標に向けて努力を継続している状況は評価できる。

⑨大学のレベル向上を目指して、業務運営の改善に必要な課題を絞り込み、年度計画に落とし込む活動を繰り返し実行することが重要と思う。

■業務の全体的な実施状況、特筆すべき成果に関して

(篠塚委員長)

⑤TOEIC受験者数の大幅な増加を達成できた事は評価できます。また、⑦科研費採択数や共同研究実施数が順調に増加している点も評価できます。

(後藤委員)

④ラーニングコモンズが設置されたことは、学修環境の向上として評価できます。学生の利用状況を把握し、効果的な利用促進に向けた検証をお願いします。

(鯨澤委員)

④リサーチアシスタント制度の導入、ラーニングコモンズの設置など、新たな取り組みは教育研究の質向上に寄与するものと思われる。その成果が評価可能な枠組みを構築できればさらに良いものになると思われる。

■大学の教育研究等の質の向上に関して

(篠塚委員長)

科研費採択数や共同研究実施数が順調に増加しているが、これらによる⑧研究活動の活性化は、参加する4年生・大学院生の実力向上にも寄与するなど教育の質の向上と言う観点からも有意義であり、今後ともこうした外部資金の積極的な獲得とそれによる研究の活性化に努めていただきたいと思ます。

■業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善に関して

(篠塚委員長)

教員人事評価は大学としての組織の活性化ならびに健全な運営の為に重要です。適切な評価項目や評価基準の設定、意義申し立て制度の確立、評価結果の処遇への反映等など、難しい点が多いと思いますが、評価される側の同意も得つつ、引き続きより良い制度の確立に努めていただきたいと思います。

→ (2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組—その他意見

■自己点検・評価及び情報公開、その他業務運営に関して

(篠塚委員長)

web を活用した様々な情報公開が進展している事は評価できます。

→ (4) 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための取組—評価できる事項

2 平成28年度決算に関する報告について →承認の意見等で整理

(篠塚委員長)

概ね適当と思いますが、第1回会議でも指摘があった様に、科研費の直接経費に関する取り扱いに関して検討をお願いします。

(飛知和委員)

平成29年8月3日に行われた第1回評価委員会会議で、指摘させていただいた通りです。

(受託研究費等収入及び科学研究費補助金の予算額へ計上することを検討しても良いのではないかと。金額の予測がつかなくとも、前年の収入に割合を掛けて計上することは、可能なのではないかとという点です。)

3 利益処分の考え方について →承認の意見等で整理

(篠塚委員長)

目的積立金は大学における教育・研究全般の充実に向けて、その効果的な使用法についての検討を進めていただきたいと思います。

4 その他

(篠塚委員長)

③業務実績についての記述では単に「検討した」等と言った記述が目立ちますが、こうした活動が組織的に行われていることを明らかにする為に、今後はどのような組織(各種委員会名など)で検討したかについても明記をお願いします。

(鮎澤委員)

「分野横断型研究事業」新たに設置されたことは評価できるが、学内共同研究の促進により何を指すのか、どのような成果が期待されるのかを明示したほうが良いと思われる。→No.38, 39